

嬉 望

第 15 号
平成 26 年 2 月 28 日
兵庫教育大学
教職大学院
学校経営コース
大学院生編集部

「嬉望」は、本学加東キャンパスが嬉野台地区にあることと、「希望」とをかけた造語です。



改善プラン発表会終了

去る 1 月 25 日 (土) および

2 月 1 日 (土)、本学加東キャンパスにて、一二年院生の学校・教育行政機関改善プラン発表会が実施されました。

兵庫県教育委員会高校教育課 西田利也 様、山口県教育委員会高校教育課教育調整監 檜垣英夫 様、秋田県教育委員会義務教育課 太田博史 様、鳥取県教育委員会小中学校課 大西泰博 様 他多数のご臨席を賜り、二年院生が、学びの成果を発表しました。

インターシップを始めとする本学院生の学びを支えていただいた関係各方面の皆様方、まことにありがとうございます。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

修了後は、全国各地にて、二年間の学びを基に、実践を重ねて参りたいと思います。

前半の部 1月25日(土)

改善プラン発表会の前半は、1月25日(土)に、兵庫県勤務者により実施されました。所属校及び改善の方向性骨子を紹介いたします。

- 石川雅己 兵庫県立上野ヶ原特別支援学校(教員のニーズ分析による特別支援学校の専門性の向上方策)
- 佐藤雅宣 兵庫県立神戸甲北高校(総合学科の理念の継承と発展をめざす甲北版キャリア教育の再構築)
- 吉野浩司 兵庫県立北摂三田高校(新設校から、新しいタイプの伝統校へ)
- 井守 貢 兵庫県立明石南高校(校内自主研修会×ファンリテートチームⅡ学び続ける生徒と教員)



- 村井和幸 兵庫県立加古川南高校(プレゼンテーション力を向上させ、生きる力を育てる一強みを活かしたプレゼンテーションの場づくり)
- 藤田 亮 大分県九重町教育委員会(「まちづくり」と「教育づくり」 「15の春」を目指す教育委員会)
- 上田一輝 兵庫県たつの市立揖西東小学校(若手教員が夢を語る職場作り)
- 藤林保信 兵庫県神戸市立長峰中学校(長峰中学校型インクルーシブ教育システムの構築)

後半の部 2月1日(土)

2月1日(土)には、後半の部として、県外からの派遣教員の発表が実施されました。

○藤谷雄一 鳥取県米子市立福米東小学校(「福米の子育成ビジョン」のさらなる深化による米子市版小中一貫教育の推進)

○宇山慎二 鳥取県琴浦町立船上小学校 開校プラン(琴浦町における人口減少社会に対応した教育の在り方―学校の地域社会機能を活かす「琴浦モデル」―)

○永田雅子 山口県防府市教育委員会(「コミュニティ・スクール」推進による教職員公募制の導入について)

○澄川忠男 山口県下関市教育委員会(自立した学校にするための教育委員会の支援の在り方―総額裁量予算制度の導入に向けて―)

○山口一成 山口県立高森みどり中学校・高森高校(併設型中高一貫校における6年間を見通した連携強化に向けた提言)

○深田 直 鳥取県立米子東高校(骨太人財輩出に向けての提案)

○高橋正規 秋田県美郷町立仙南小学校(子どもの力を伸ばす地域との新たな関係づくり)

【会終了後、澄川さんから】
修了生の皆様 先輩方の温かい視線を感じながらも、良い意味での緊張した発表会になりました。実践家として活躍されているお立場での鋭い質問を、後輩への愛情として受け取りましたが、的確な回答とならないこともあり、申しわけございませんでした。今後は、論文の完成に向けてもうひとがんばりする所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。
学校経営コース 25 年度 P2 一同



ゲストティーチャー情報

〔一年生 専門科目 学校組織
マネジメントと学校評価〕

○名城大学大学院 木岡一明 先生

1月15日(木)・1月30日
(木)の二回に渡り、学校評価の
在り方に関して、平成22年度
に改定された、文科省の「学校
評価ガイドライン」を基に解説
していただきました。

保護者等へのアンケートは、
外部評価になり得ないこと、
「やっているか」ではなく、「で
きているかどうか」を評価する
こと、全職員が組織的に評価に
関わる体制が重要、など、学校
評価にまつわる基礎的な要点
をおさえていただきました。

「学校評価は、学校が力を入
れて取り組んでいる事柄の成
果を中心に適切に理解しても
らうことが中核となる」とのこ
と。学校評価の本来的な趣旨を
理解し、学校改善の有効なツ
ールとして活用することの重要
性を学びました。



〔一年生 専門科目 教育行財
政の制度と運用〕

○1月29日(水)

文部科学省初等中等教育局
財務課 粟井明彦 様

国の教育施策の形成に関わ
っておられる粟井明彦 様か
ら、教員定数に関する動向につ
いて伺いました。

子どもの数と財政の関係性、
政権与党との加配に関する認
識の差、教職調整額の変遷、「教
師力、学校力向上7か年戦略」
に込められた思いなど、具体
的な資料を基に、ていねいに話
していただきました。

もともと印象的だったのは、
教員定数確保のためには、関係
各省との折衝を重ねる必要が
あり、施策と予算は表裏一体の
関係なのだという点でした。
「国づくりは人づくりから」
との強い信念に基づいて政策
形成を行っておられる様子が
ひしひしと伝わってきました。
その熱い気持ちに込めるべ
く、私たちも努力を重ねたいと
の思いを新たにしました。



○2月2日(日)神戸HLC

シンポジウム「教育行政の方向

性を探る」～首長の視点から～

滋賀県大津市長 越 直美 様
京都府京丹後市長 中山 泰 様

行政現場との交流・対話を通
じた教育行政学の研究理論
と実践の融合を目的として、現
職の市長お二方をシンポジス
トとしてお招きし、各市の直面
する教育行政課題に対しての
取組状況や教育委員会制度に
ついての情報発信をしていた
できました。

越 大津市長からは、いじめ
対策に関わる取り組みを通じ
て、首長部局でいじめの情報が
一局管理されるシステム構築
の様子が報告されました。

中山 京丹後市長からは、少
子化に伴う学校再配置計画と、
市の小中一貫教育の方向性
について報告がありました。

シンポジウム後段では、教育
委員会制度について、各市長か
ら意見が出されました。

制度改正、首長の意向が反映
される教育委員会へ・・・と話さ
れた越市長。専門家が教育施策
を運用し、首長が支援する分業
を採るべき・・・と中山市長。
「民意の反映」とらえ方に、

お二方の見解が微妙に異なる
印象を受けました。施策の重要
性や民意の活かし方は、自治体
の状況や首長の意向により
様々です。両市の施策がどのよ
うに進捗するのかを見守りつ
つ、首長と教育施策の関わり等
についても、さらに学びを深め
たいと感じました。



フィールドワーク情報

○ゼミ生の現任教を訪問

1月8日(水)、安藤ゼミの
一年生四名が、毎年恒例の現任
校訪問を行いました。

今回は兵庫県立西宮北高校
と京都市立塔南高校、さらに現
任教ではありませんが、「堀川
の奇跡」として全国から注目さ
れている京都市立堀川高校も
訪問しました。

西宮北高校では厳粛な始業
式を、塔南高校では選択授業や
小学生との交流授業を見学し
ました。堀川高校では、同校の

学びの中心である「探究」の取
り組みについて川浪重治校長
から丁寧な説明を受けました。
今後は、各校の特色ある取り
組みを参考にして、各自の現任
校改善プランを作成していき
たいと思います。



京都市 堀川高校にて

○研究開発学校「道徳」研究授業 2月4日(火)

兵庫県立猪名川高校

高校生に社会人基礎力を育
むため、教育課程に「道徳」を位
置付ける、三年間の研究に取り
組んできた兵庫県立猪名川高
校一年生の授業公開に、13名
の院生が参加しました。

授業後の研究協議では、三年
間の成果を踏まえて、高校での
「道徳」の扱いについて可能性
を探りたい、との講評もありま
した。猪名川高校では、研究の
総括に入っていきます。

